二次汚染発生! 放射能汚染された廃棄物を受け入れたらこうなる!?

私たちのまちのゴミ処理施設は、家庭などから出る普通のゴミを処理するための施設で、放射能汚染された廃棄物の処理を想定して造られてはいません。東北・関東の施設では、汚染されたものを処理したためにトラブルが発生しています。その事例を集めてみました。

【秋田能代市】
岩手県産の木材チップを発電燃料にしていた能代バイオマス発電所で、焼却灰から1キロ当り最大３３００ベクレルの放射性セシウムが検出された。
※情報元：「さきがけ on The Web"焼却灰からセシウム、能代のバイオ発電所 岩手産チップ使用"」（9/14）

【群馬県前橋市】
前橋市の下水処理施設では、汚泥を溶融する施設は内部の放射線量が高くなり、周辺が「放射線管理区域」に指定され、稼働を停止しています。
※情報元：「NHK ニュース"汚泥の溶融施設 放射線量高く"」（8/16）

【東京都江東区】
汚泥処理施設「東部スラッジプラント」で、下水を通じて集められた放射能が処理工程を通じて再度大気環境中に放出され、卓越風により二次汚染を引き起こしている可能性が指摘された。こちらの汚泥焼却施設には環境省が99.9%セシウムを補足できるとしているバグフィルターが付いている。
※神戸大学大学院海事科学研究科(放射線物理、放射線計測)教授山内知也氏の調査による指摘

【千葉県柏市】
国の埋め立て可能基準（1キロ当たり８０００ベクレル）以上の高濃度汚染焼却灰を出している同市南部クリーンセンターの運転が当面休止に。放射能汚染で清掃工場が休止になる前代未聞の事態となった。埋め立て処分できずセンター内で保管が続く灰は１４３トンで保管スペースは残り３０日分しかない。
※情報元：「毎日新聞"清掃工場：焼却灰汚染濃度高すぎ…炉休止 千葉・柏市"」（10/1）

最終処分場に埋めたらこうなる?

【群馬県伊勢崎市】
一般廃棄物処分場の排水から、モニタリングの目安としている濃度を超過する放射性セシウムが検出され、排水が一時停止。環境省は「埋め立てられた焼却灰により排水に放射性セシウムが溶出した可能性が高い」としている。
※情報元：「一般廃棄物最終処分場における排水中の放射性物質の測定結果について」
「廃棄物最終処分場における焼却灰などの埋立処分について（注意喚起）」

【千葉県柏市】
最終処分場の排水から1リットル当たり最高３１ベクレルの放射性セシウムを検出。市は検出直後から、関東地方の水源である利根川への放流を停止している。
（原因については調査中。高濃度に汚染された焼却灰からセシウムが溶け出した可能性もある）
※情報元：「毎日新聞 地方版 "東日本大震災：最終処分場水からセシウム 柏市、利根川へ放流停止 ／千葉"（10/4）」

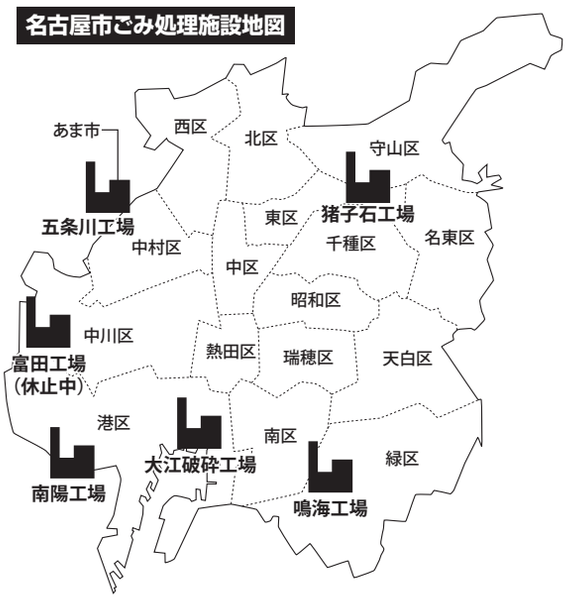
【東京都大田区】
汚泥汚泥処理施設「南部スラッジプラント」を視察した東京都議会議員の柳ヶ瀬氏が、汚染された「混練灰」が施設外に飛散している可能性を指摘。 混練灰とは、粉末状の焼却灰にセメントを混ぜたもの。細かな粒子状で、当然はたけば飛ぶ。これが保管されている建物の外で散見され、運搬用のトラックにも付いていた。
※情報元：「[ECO JAPAN リポート]どうなる放射能汚染物の処理【3】南部スラッジプラントでも飛散の可能」（7/22）

●静岡県の技術研究者が、島田市の燃焼実験から下記のデータを割り出しました。
・物質収支から算出されたCs137の除去率＝65%
・排ガス分析から算出されたCs137の除去率＝53～62%
およそ、40%のセシウム137が放出されている可能性がかなり高いということで、セシウム137はとれていません。
放射性物質を含んだガレキを焼却すると、そこに含まれているセシウム137は6割程度しか除去できていません。他の核種は不明です。
100Bq/kg以下のクリアランスレベル以下のガレキであっても、その40%の放射性物質は漏れます。
環境省は、99.99パーセント取れると無責任に発言を繰り返してきていました。
環境省は3/26に行われた院内交渉において、この島田市の焼却炉から放射性物質が漏れている事を認めています。

●中学生が環境省の職員に「(瓦礫を受け入れて)僕達を100%守る(守れる)自信はありますか?」との答えが「将来のことなので、それはわからないことっていうのも当然ある。ただその中で現在の問題として廃棄物は目の前にあるからかたづけていかないといけない」と回答しています。

●日本に来日した、チェルノブイリ原発事故の被曝者を診続けてきたバンダジェフスキー博士は「セシウムは気化する。高温で燃やすことなどありえない。」と話しています。気化したセシウムを吸引する事は大変危険な行為です。

名古屋市ごみ処理施設地図



Q 汚染廃棄物って安全なの?

A 広域処理を計画している汚染廃棄物は放射性セシウムしか測定データが公表されておらず、ストロンチウムやプルトニウムなどα、β核種の測定データは明らかにされていません。

Q 放射能汚染された廃棄物を家庭ゴミの処理場で安全に処分できるの?

A 焼却するとガス化した放射性物質が大気中に放出される可能性が高い。
・汚染廃棄物に含まれるセシウムは６７１度でガス化し、ガス化したセシウムはバグフィルターでは除去できません。
・排ガスは集中管理システムにより有害物質の有無をモニタしていますが、現状の集中管理システムでは放射性物質の漏れはモニタできません。

Q 放射性物質は漏れないのですか?

**A 焼却灰に含まれるセシウムは水に溶ける性質があるため海洋型の処分場では埋め立て不可能です。
また陸上型の処分場では、埋立地から出る浸出水から有害物質を除去して河川に排出していますが、浸出水処理装置では放射性物質を除去できないため垂れ流しになってしまいます。放射性物質を含んだ焼却灰をそのまま埋めると河川や海洋を汚染します。**